

## 耕作放棄地解消活動

農委会名：宇土市農業委員会

### 1 地域の概要

本市は、熊本県のほぼ中央、熊本平野の南縁で有明海と八代海（不知火海）を二分する宇土半島の基部に位置し、半島のほぼ北半分を占めている。市域は東西方向に細長く、総面積は74.30km<sup>2</sup>で、北に熊本市、東に旧城南町、南に宇城市とそれぞれ隣接している。

本市の農業は平坦部の耕地整理がほぼ完了した水田と、山間山麓に構成された畑（樹園地を含む）を基礎として、水稻や施設園芸・野菜・たばこ・果樹・花き等を組み合わせた複合経営を中心に、本市の基幹産業として地域経済を支えている。

主要な農産物としては、葉タバコや米、施設園芸では、トマト、メロン、キュウリ、イチゴ、ナス等が栽培され、柑橘は早生、温州みかん、デコポン、ネーブル等が栽培されていて、それぞれの地域によって農地の利用状況や営農類型が異なっている。

### 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 12人（うち、認定8人、女性3人）
- (2) 推進委員数 13人（うち、認定2人、女性0人）
- (3) 事務局体制 5人（専任5人）

### 3 掲げた目標

年々拡大する耕作放棄地について、農業委員及び農地利用最適化推進委員がその解消活動に取り組むことによって、市内の農業者に遊休農地解消の重要性を示すと共に、近隣の保育園児と農作業に取り組むことにより、保育園児に農作業の重要性や収穫の喜び等について学習していただく。

### 4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

平成20年度から市内各所の遊休農地を借り受け、ジャガイモ等を植え付けし、その傍らに耕作放棄地解消をPRする看板を設置している。

令和3年度では、網田地区においてジャガイモの栽培と収穫を行った。



【耕作放棄地の状況】



【委員による作業の様子】



【委員による作業の様子】



【収穫作業の様子】

## 5 取組みの成果（できるだけ数値を用いながら、具体的に）

耕作放棄地解消活動は熊本地震の影響による中断をはさんでいるが、継続して実施している。今年度の農地もこれまでと同様に交通量の多い道路の近郊にあり、農業者に遊休農地解消の重要性を示す効果は発揮されたと思われる。

なお、園児にとっては、農作業に加えて収穫した作物を食することにより、農業と食育について体験学習の機会となった。

## 6 課題と今後の方針等

耕作放棄地や遊休農地は年々拡大する傾向にある。上記のようなPR活動に加え、農地の集積・集約を促進し、農地の有効利用を図る必要がある。

令和4年度はまた違う地区で実施するが、さらに各委員と話し合い遊休農地の活用を模索していきたい。

## 遊休農地解消活動

農委会名：宇城市農業委員会

### 1 地域の概要

宇城市は、平成17年1月15日、旧宇土郡三角町、不知火町、下益城郡松橋町、小川町、豊野町の5町が合併して誕生した。

九州の経済大動脈である国道3号線と西は天草、東は宮崎県への結束点という地理的状況に恵まれ、美しい田園風景と不知火海の文化に彩られた自然景観、そして都市的機能を併せ持つバランスの取れた水と緑と心豊かな地域である。

また、本市は半島地域や平坦地域、中山間地域といった変化に富んだ自然条件や立地条件を生かし、野菜、花きなどの施設園芸をはじめ、果樹、米、畜産など多様な農業生産が展開されている。

### 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 13人（うち、認定8人、女性1人）
- (2) 推進委員数 20人（うち、認定9人、女性1人）
- (3) 事務局体制 5人（専任5人）

### 3 掲げた目標

これまでの豊野町での遊休農地解消事業に加え、他地区においても事業を展開していく。  
○遊休農地解消（利用）面積 3,000㎡

### 4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

平成19年度から、現地検討会（旧町）単位で国県市道沿線の遊休農地を借り受け、景観作物（ヒマワリ、コスモス等）を植え付け、遊休農地解消を呼びかける看板を設置してきた。

これまで豊野町においては、地元の農業委員および農地利用最適化推進委員と豊野小中学校が連携し、イモ植えやイモ掘りなどの農業体験に取り組んでおり、令和3年度も引き続き実施した。

また、本年度はこれまでの豊野町に加え、不知火町においても地元農業委員と農地利用最適化推進委員が協力し、これまで荒廃していた農地5筆（1,485㎡）の草刈や重機を入れての整地を行った。

### 5 取組みの成果

豊野小中学校と連携しての農業体験の取組みは今年で12年目となり、子ども達も毎年楽しみにしている。

本市においても近年核家族化が進み、また地域の農家数も減少し、子どもたちが農業体験をする機会が少なくなっている中、土に触れ、このような農業体験ができることは子ども達や地域にとっても良い機会となっている。

なお、秋のイモ掘りでは小中学生が互いに声かけをしながら、和気あいあいとした雰囲気

(別紙様式①)

気の中での活動となった。

また、本年度は例年よりもかなり多くのさつま芋の収穫となり、各家庭で美味しいお芋料理を味わったようである。

さらに、本年度、遊休農地解消事業を実施した不知火町においては、国道266号線を通る方々を少しでも楽しませたいとの思いから、草が生い茂っていた農地に重機等を入れ、委員らが整地を行い、レンゲの種まきを行った。

取り組みの初年度ということで、開花したのはわずかではあったが、来年度は畑一面の開花を期待し、手法について委員同士で意見を出し合い意欲を見せている。

本年度の取り組み面積は豊野町において1,047㎡、不知火町で1,485㎡、計2,532㎡であった。



【委員による整地後の農地】

## 6 課題と今後の方針等

本年度は2地区での取り組みを実施し、解消面積の拡大を図る事ができた。

遊休農地は耕作放棄地の発生に繋がるとともに、農作物の病気や病害虫の発生源、有害鳥獣の隠れ場などにより、周辺の農地に悪影響を及ぼす恐れことが懸念されるため、この取り組みが農業者のみならず市民への周知へ繋がればと考える。

また、今後はできれば宇城市管内の各地区（旧町）で実施できればと思う。

# 人・農地プランの実質化に向けた取り組み

農委会名：美里町農業委員会

## 1 地域の概要

本町は、熊本県のほぼ中央に位置しており、熊本市中心部より南東へ約30kmの距離にある自然豊かな地域である。

地形は山岳丘陵部が多く、総面積144.03km<sup>2</sup>の約3/4を森林が占める典型的な中山間地域である。西部地区に一部平坦地がみられるが概して宅地や農地は少なく、住宅地等は地域を東西に横切る国道218号線をはじめとする主要道路に沿って点在し、農地もその大部分が丘陵地や傾斜地で、棚田等として利用されている。

## 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 10名（うち、認定5人、女性1人）
- (2) 推進委員数 17名（うち、認定2人、女性0人）
- (3) 事務局体制 3名（専任2人、専兼1人）

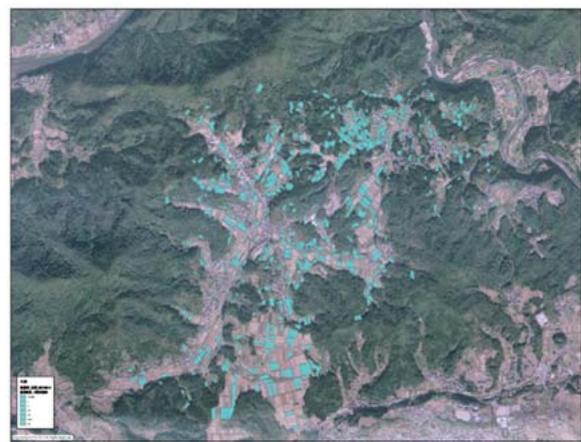
## 3 掲げた目標

人・農地プランの実質化

## 4 目標達成に向けた取り組み（運動）の内容

美里町では、令和2年度に54集落中8集落で話し合いを行い、地域の農業の将来について話し合いを行った。引き続き令和3年度も残りの46集落について話し合いを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で話し合いは全て中止となった。しかし、代替策として中心経営体等へアンケート調査を行い、その結果を反映させて人・農地プランを実質化することとした。

【実際のアンケート用紙】



【アンケート結果を反映させた地図】

5 取り組みの成果（できるだけ数値を用いながら、具体的に）

調査結果は232経営体中217経営体から回答があり、集落における受け手不足問題やどの程度規模を拡大・縮小したいのか、様々な意見を得ることができた。

また、代替策としてアンケート調査を行ったがより現状に合わせた具体的なものとなった。

6 課題と今後の方針等

農業従事者の高齢化に伴い認定農業者やその他農業者による離農や規模縮小が発生してきており地域担い手の確保が困難な状態になっている。そのため、若年層による新規就農に対しては支援等が国県においても設けられているが、実際の対象者は少なく、定年退職後の就農について取り組みやすいような支援策を設け、実質化した人・農地プランを基に地域の担い手の確保を図る必要がある。